

・雨でも休まず、203回、204回、

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：12月 2日（第一土曜日）：小原本陣の森・技術向上・担い手育成の森
 - ・参加費400円、駅から車相乗りで行く。弁当・飲料水持参
- ・定例活動2：12月17日（第二日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流・多様な森活動
 - ・この日は、「森の感謝祭・忘年会」、午前は何時もの通り森林整備活動。弁当不要。
 - 午後、夫々の班は知恵と趣向をこらして旨いものをつくり「森神様と仲間」に捧げる。
 - 会費+参加費：1000円、学生さんは忘年会費無料。指揮：ハーヤ・エコ・カンちゃん

* 参加費が来年から変わります。別紙：フィールド会議・議事録参照

- ・初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自、森へ。
- ・服装：汚れても良い服装(夏は黒色は駄目)、着替え、長袖・長ズボン・滑らない足元
- ・持参：なるべく皮製軍手、万一の怪我に備えて保険証、食器(碗・箸)、飲料水

* 注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

地域との共生

都市と地方の距離感が無くなったといえども実生活の中では、都市住民と地域住民の生活慣習や価値観の差は確実にある。10年前、森林ボランティア活動を始めたが、当方は善意・無償の積みもりでも地域に取っては良い迷惑。いろんな思い違いや軋轢があつて3年くらいは、多事多難で様々な壁にぶつかった。それでも直向に続けねばと一つ一つ解決しながら続けてきた。

10年経過して当会は、地域に認められるようになって相模原市経済部と小原町が主催する「小原活性化計画」の話し合いの場に同席させて頂いた。11月12日、夜7時からの話し合いでは、当会理事長永井宏一氏を含め、小原町の役員全員・観光協会、市の経済部、国交省・相武事務所の担当課長他、30人程の参加という打ち合わせ会であった。

この場では勿論、小原本陣・小原の郷が中心課題だが、当会の甲州古道復活班の4年に亘る地道な調査活動が契って、小原地域だけに止めず、古道をつなぐ相模湖町全域の活性化に貢るようにしようと言う方向に進んだ。

森が大切だと言う一途な思いから地域と仲良くしてこそだ。お祭りのお手伝い、森林整備や交流会開催など「雨でも休まず・・・」に継続してきた事が、成果として現れたのであろう。

(関連記事・文中)。

ハッキリしない空模様で常連の森仲間19人、見学だけでよいからどうしても参加したいと「Forest Nova」という学生グループが8人飛び込み参加してきました。何でも NEC の社会貢献活動の一環として森林体験を重ねているということです。参加計27人。

前日3日、本陣祭で「焼き魚・相模湖の秋刀魚!？」が大評判だったものだから「森の皆さんにも食べさせたいのでね」と石井山の石井さんがわざわざ、森に持ってきて下さいました。

一夜干ということもあってか、美味かったんです、これがまた。



改良の進むTC(テープ・シュート:簡易・材搬出装置)

作業報告に入ります。7人の枝打ち班の成果45本。ベテランがはしごに登ったせいもあり、すごいペース！。

昼食時の下山時間を惜しみつつ、作業現場付近で食事を取るメンバーに今回は、お昼のお汁を届けてみました。喜んでもらったことで、成功とみなしていいかしら？。

独断と偏見で好評と判断し、次回も「汁物配達人」を務めます。

そしてシューターを利用したの間伐材下ろしは10本。器具設置に時間がかかってしまったとの事で、午前中2本、午後8本、計10本だけの搬出に班長が残念がっていました。それでも、これが本格化すれば何人力???。期待のシューターも改良を重ね、少しずつ少しずつ効率が良くなってきています。

そしてボサ刈り班。最初、NECからの参加と聞いていたのですが、NECが森林活動を応援している学生さんとの事。それも全員、別々の大学で信州大や関西大と生活拠点も違う。7~8名・何の集まりなの?と首を傾げながらも、作業に入ればベテラン戦力で地下足袋の似合う学生さんもいたんですよ。その学生さんたちは今夜は近くでキャンプするとか、山談義に盛り上がったでしょうね。若いって、いいね。

青年たちよ、大志を抱け!。森を守ること、頼んだよ。



相模湖で獲れた?焼き秋刀魚

天気予報は、午後から雨、肌寒い朝。森に着く頃は既に霧雨が降りてきた。参加はベテラン会員29人に常連参加の望星高校15人、東海大の11人、日大10人、初参加の麻布大4人、東大院の3人、一般初参加2人、合計74人。

この構成は、8月頃からの傾向でテーマを決めての学生の参加が増えている。今回の東大院の参加のテーマは「NPO研究、持続的森林経営の途はあるか」。ウーン、頼もしい、希望が持てる。



「森林NPO論」を卒論にする麻布大、東大院生

また、「卒論研究：NPO論」で参加した武蔵工大の吉村君が、「この森林活動は、他に見れない活気で満ちている」と嬉しいことを言ってくれた。

お昼、地元の榎本昭一さんが差し入れてくれた「自然農法：青首大根・八つ頭・里芋」の豚汁が旨かった。ゴマ味噌たれの「ふろふき大根」も旨かった。



研究室にこもるより・・・この方がずっと面白い

午後、雨模様も本格化傾向、「どうする？」、「うん、皆んな、未だやりたい顔してるしな～、様子を見ながら早めに切り上げるか」・・・で、危険の少ない福蔵寺跡平地林の林床整理をメイン作業して2時半頃、終わりにしたのだが終礼を済ませた3時過ぎには本降りとなった。

.....
フィールド会議・運営会議：活動終了後・・・詳細別紙。

囲炉裏も切ったのだが、本格化してくる氷雨の下でテントを張っての打ち合わせ会は寒かった。が、提案・議論・討論は白熱して面白く・意義あった。

議題に出たので記すが、FSC 認証の森管理者として最近、速水林業との比較が論ぜられることが多くなったと言う話。認証機関 SGS の評価は、緑のダムの活動の多様性を評価したのであって、森林技術について林業專業の速水林業と当会とは比較しようがない。しかし、森林 NPO を標榜するかぎり技術の向上は最重要課題であることは、言うまでもない。

そして9月30日に催した「緊急運営会議：1) 1年目のFSCを検証する、2) 活動・組織の見直し検討会」・・・、以後、森仲間の意識改革が確実に進んでいると感じている。

19日この日の会議はそれを体現したものになっているように感じた。その雰囲気・様子は、当日の22時過ぎに議事録を整理して送ってくれた入江仲間の報告書(別紙)に現れている。

臨時活動

1、神奈川県・植樹祭：未来につなぐ森づくり

天気予報は午後40%の雨。家を出る時、どんよりと雲は低く垂れ込め予報は確実に思われた。

小仏トンネルを抜けると不思議に雲がグングン上がって行く。

・若柳嵐山：植樹会場：植樹会場に指定された当会の杉巨木の森では既に、県職員・森林組合の方々が準備に忙しそうであった。

当会が特にお願いした地元の杉苗が、林道に沿って50本ばかりが植えてあった。

地主の鈴木さんと県森林課のご配慮を感謝する。メインの式典会場での活動展示・出席要請を受けていたので、ご挨拶もソコソコに津久井の鳥居原園地に向かった。その頃は、晴れ間さえ見えて来た。

・式典会場・鳥居原園地：会場に着いた10時頃、見る見る晴れ間が広がる。遠く丹沢山塊、眼下に宮が瀬湖を見下ろす園地では、県森林関係者(県職員・県下森林組合・林業協会他)、支援のあらゆる団体が会場設営に忙しく立ち働いていた。

NO13の当会ブースでは、佐々木仲間が準備万端・俺たちの到着を今や遅しと待ち構えていた。全て順調、問題なし。式典開会12時前に、松沢知事・小川相模原市長・久保寺昇連会長・新堀自然保護協会会長等、各ブースを慰問して回られた。勿論、当会ブースにも立ち



「かながわ未来の森づくり」を訴える松沢知事



相模原市緑の少年団

寄ってくださった。

- ・植樹祭式典：定刻の開会時には、見事な秋晴れとなった。

松沢知事のマニフェスト（公約宣言）になっている「水源環境の保全再生」に掛ける決意は並々ならぬもので、森林NPOとしてこの政策への協力を新たに心に刻んだ。

当会は、市民活動・森林NPOを代表して「みどりの誓い：行政と協働する森林と都市をつなぐ森づくり」を宣言・約束した。

- ・県職員、関係者のご苦勞：雨の予報で会場を守るために関係者の皆さんは昨夜、徹夜の泊り込みだったそうである。一つのことの万全を期するためには、表に出ないご苦勞があつてこそと胸に期することもある。

2、小原本陣祭：11月3日

- ・本陣祭：大名行列・・・・、相模原市と合併して始めての本陣祭である。



松沢知事も立ち寄ってくださった



大名に扮した小川市長



奴さんの見事な振り付け

小川市長も大名に扮して参加されるとのことであつた。それなら乗馬されてと思つていたが、後列を徒歩で参加されていた。意外なこだと関係者に聞いたら「先ず、土地の人が大切小川市長は常に人を先に立てるお人です」と言うことであつた。病を患つておられたと聞いて

いたが、そんな様子は微塵にもみられなかった。

・お祭りに参加：石井山の持ち主、石井さんから町内会からのご依頼で応援に出来ないかとの要請があった。

明日4日（第一土曜日）は、「小原本陣の森・定例活動日」で2日続けての小原行きは辛い、もう、他人でもなし、MLで森仲間に応援要請を発信した。

川崎から4人、仲間が12人、計16人が駆けつけてくれた。応援は、交通整理に4人、あとは甲州街道に面した水車が回る小碓さんの前庭で焼き魚の焼きたて販売だそう。石井さんが、どでかい焼き魚台を作って待っていてくれて、それに乗せられた何でも面白く

してしまう森仲間たちは、ねじり鉢巻で「さあ、いらっしやい・いらっしやい、相模湖取たての小原の焼き秋刀魚、大根おろし付、一皿100円！」なんて言うものだから、飛ぶように売れてしまった。品切れで、近くのスーパーからさつま揚げを買ってきて場を凌ぐ姪末。石井さんが大喜びしたことは言うまでもない。



樵が漁師になったのか？、それともテキヤ？

3、小原町活性化協議会：11月12日

相模原市は戦後、相模原台地で砂埃の立つ練兵場しかなかった。こんな場所は、観光や歴史の地になりにくい。戦後、相模ダムが出来て感慨用水が確保できたことから相模原は、急速に発展して今は押しも押されぬ68万人口大都市になった。そこに、風光明媚な相模湖と歴史の小原本陣である。そしてまた、「NPO 緑のダム北相模」とか言う市民団体が、4年掛けて小仏峠～笹子峠までの歴史に埋もれた「甲州古道」を掘り出して「その内、世界遺産にするぞ！」と豪語しているらしい。相模原市が、こんな面白げな話題を見逃すはずはない。

そんな背景があって12日、相模原経済部・相模湖経済環境課・相模湖観光協会・小原町内会、オブザーバーに国交省相武事務所等、30人ばかりが集まって活性化協議会が結成され、小原本陣・古道を核に活発な討議がなされた。小原町内会が苦しい財政の中で13年間も続けてきた「本陣祭」は、合併によって相模原市の目玉になるお祭りになるが、地元町内会のご苦労に花が咲いたと言うことは、すばらしい。

その会議で「本陣祭：アンケート調査」の中でチョット、いや、大いに嬉しいことがあった。

- 1、地域活動の評価 1位：小原本陣を守る会 2位：小原町を良くする会
3位：緑のダムの森林活動
- 2、地域財産 1位：小原本陣 2位：小原の郷 3位：NPO 緑のダム北相模
- 3、祭人気ベスト3 1位：小松屋さんがトイレを開放してくれた・・・これぞ、モテナシ心。
2位：本陣祭り太鼓・・・・・・迫力・勇壮溢れる攻め太鼓
3位：魚焼きのおじさんたち・・・嬉しい！、笑っちゃう！

11日～12日、新潟県の松之山に行った。17名参加。JR 高尾駅集合、圏央道～関越道～松之山。目的は、茅葺き古民家を保存するための茅刈りボランティア。

春の茅葺きに使うだけの茅を雪の降る前のこの時期に対らねば！。どれだけの戦力になれるだろう。雲行きが怪しい空とニラメッコしながら現地に向かう。トンネルを抜けるたびに紅葉が増す。途中、雨が降って来たりして「作業無し?、温泉旅行に変更?」

だが然し、当会は晴れ男・晴れ女軍団。茅刈り現場ではお日様、燦燦。作業終了した途端雨。夜は勿論、大いに沸きました。翌朝は、まっすぐ生えるブナ林、紅葉の美しい美人森の見学。ガイドのお父様の飯田画伯のアトリエに着いた頃から、雷鳴と雲から豪雪の急変化。綺麗だったな～、この雪景色。お昼、蕎麦打ち名人のお蕎麦、おハシかったな～。

活動アンケート第7回：間伐材の活用

FSCは、問題があれば解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年10月までに全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は間伐材の活用についての質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない・異論を提供されたい。(この回答欄は、認証機関SGSの観察条件になっている)。質問：間伐材の管理、活用が上手く行っていない。「森にお金を返す」本来の目的のためには積極的に商品開発、市場開発流通など、先ず都市への流れを作り出すビジネスモデルをつくるのが先決である。(正会員)

回答：こんな提案を受けると百万の味方を得たようで嬉しくなります。

先月号の繰り返しですが昨年、土木工事で捨ててあった木を貰ってきて県産材の家を建てたい会員鈴木設計士に提供しました。22万円の収入でした。今年、当会の杉巨木林の痛んだ木を伐って程度の良い木を選んで売り、地主さんには今月、立米当たり13,000円を払いました。ソコソコ利益も出させていただきました。

ところで、当会の仲間たちの伐った間伐材は、どうなっているのでしょうか。質問者のご指摘の通りです。人手も足りないし、月一活動では何本も伐り出せないし、道具も「ヒッパリダコ」と先月、やっと「3万7千円のチルホール：一定の方向に切り倒す機械」を買ったばかりです。

質問者のご提案のようにするためには、人を雇い重機を買えるだけの資金力と技術力を持たねばなりません。これに挑戦するために私は先ず、清水仲間にNPC(Non Profit Company：非営利会社：給与などは通常通り支払うが、利益は森林事業に投資する)を提案しています。

テスト的に作業小屋や観察道、表示板などを発注したりして、NPC設立準備を進めています。一昨日、「貝沢橋」を発注しました。これらの木は、当会の伐採した間伐材を利用します。清水仲間以外に数人のやる気の仲間にも声を掛けています。そこそこ、実績を付けてやろうと言う仲間が5人も集まれば、事業化の予定です。

市場開発も手がけ、当会 FSC 材を建具組合や漆器組合に20立米ばかり(家1棟分相当)を買

ってもらいました。本格化すれば、鈴木設計士や大坪建築士がお得意さんになってくれるでしょう。これらの収入が「NPO 緑のダム」の活動資金になります。「木を使うことは、森を守ること」と突破口を見つけ出して新しい形の森林産業を生み出すのが、市民活動・森林NPOです。

木を使うこと 森を守ること

文責 住まい工房 なお(株)

森を後にした子供たちが更に目を輝かせた場所は、製材所でした。

今まで森に立っていた姿、その木・丸太がゴロゴロと転がりながら柱になって行く。次にその大きな柱が板状になっていく姿、削られて「かんなくず」の山が出来てくる姿、どれを見ても興味津々で見つめています。

甲斐東部材団地は、木材市場・製材・プレカットの3事業団体が集まっている場所です。山から集められた丸太がここで、川を剥き、乾燥され、パソコンで製図したものを製材し、プレカット（直ぐ組み立てられるように刻みを入れた）までを行います。丸太からプレカットまで一箇所で行われるので効率がいいですね。製材もコンピューター制御ですから殆ど人がみあたりません。木屑もなく本当に綺麗な工場です。プレカット工場では継ぎ手などの加工もすべてコンピューター、図面の指示通りに刻まれていきます。一部直径の大きな大黒柱などは手刻みの部分もあります。

大人はコンピューターで行われる仕事の正確さ、端材も捨てることなく生かしていく技術、綺麗な工場などにしきりに関心していました。子供たちには、森の木が柱や板になっている姿が新鮮に映ってるようです。それが自分たちの住まいになる、そこに驚嘆しています。この純粋な気持ちが森を救います。

「百聞は一見にしかず」今日見たことは原体験・原風景として子供たちの野入りに刻まれるはずです。小さな一歩ですが確実な歩みです。この歩みを積み重ねることが大切と感じています。ここで製材された材料は横浜に運ばれ、相模川流域材の家として建築される日を待っています。

今回は上棟当日「僕、大工さんになる」といった流域材建前の報告です。最後になりましたが前回、お休みを頂、申し訳ありませんでした。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ポチポチと・・・

そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称 : さがみ湖・森づくりの会 : NPO法人緑のダム北相模・森林部会

事務局 : 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

HP : <http://midorinogam.jp>

E-mail : moritomo@rk9.so-net.ne.jp

協働団体 : 神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)

ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニテイ